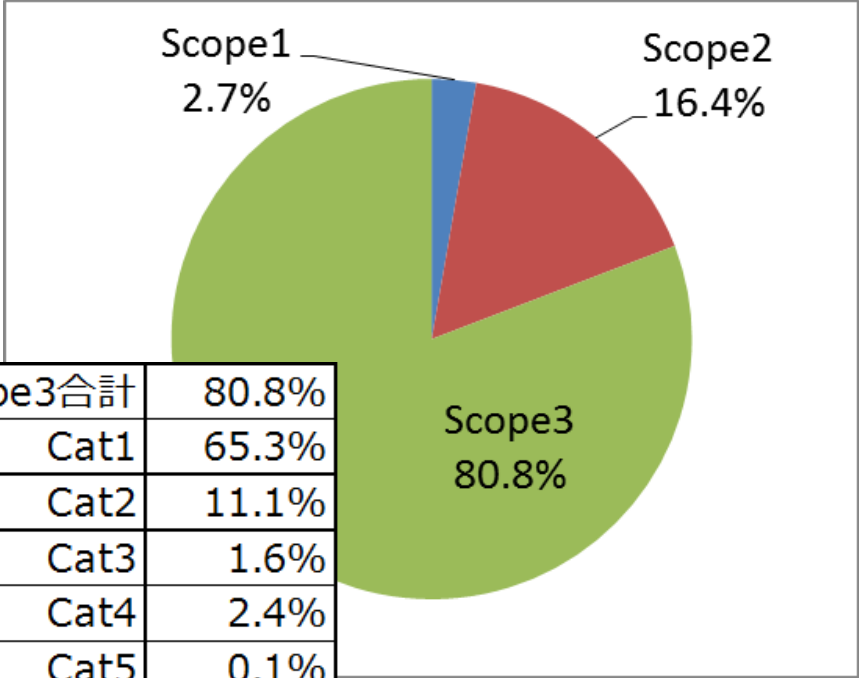


株式会社フジクラ

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種：製造業 ● 事業概要:エネルギー・情報通信、エレクトロニクス、自動車電装関連製品の製造、サービスの提供 ● 事業規模：売上6,537億円、連結子会社（国内外）97社、従業員数56,961名
2.削減目標案 ※定量値公表が難しい場合、定性的説明でも可	<p>＜Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み＞</p> <p>目標：（国内）総排出量 2030年に2013年比で6.5%削減 （海外）排出量原単位 年1.3%削減 2050年CO2排出ゼロチャレンジ</p> <p>取り組み：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高効率設備の導入、生産効率の改善等による省エネの推進 ● ゼロエミモデル事業所設定の推進 ● 社内カーボンプライシング導入の推進 <p>＜Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● サプライヤーとの連携により、容器包装の軽量化 ● リサイクルの推進 ● 製品輸送効率化の推進 等

株式会社フジクラ

項目	内容																			
3.基準年のGHGインベントリ	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2・3の排出量の状況 (国内) 	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : (国内) 24,509 t-CO2 																		
	 <table border="1" data-bbox="436 786 871 1282"> <thead> <tr> <th>Scope3合計</th> <th>80.8%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cat1</td> <td>65.3%</td> </tr> <tr> <td>Cat2</td> <td>11.1%</td> </tr> <tr> <td>Cat3</td> <td>1.6%</td> </tr> <tr> <td>Cat4</td> <td>2.4%</td> </tr> <tr> <td>Cat5</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td>Cat6</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td>Cat7</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td>Cat9</td> <td>0.2%</td> </tr> </tbody> </table>	Scope3合計	80.8%	Cat1	65.3%	Cat2	11.1%	Cat3	1.6%	Cat4	2.4%	Cat5	0.1%	Cat6	0.1%	Cat7	0.1%	Cat9	0.2%	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE2 : (国内) 146,870 t-CO2
	Scope3合計	80.8%																		
Cat1	65.3%																			
Cat2	11.1%																			
Cat3	1.6%																			
Cat4	2.4%																			
Cat5	0.1%																			
Cat6	0.1%																			
Cat7	0.1%																			
Cat9	0.2%																			
<p>算定中 : Cat10,12 対象外 : Cat8,11,13,14,15</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE3 : (国内) 722,193 t-CO2 																			

株式会社フジクラ

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来的に原材料調達に重大な変化が生じる可能性や、対策の遅れが投資引上げにつながることも懸念される ● 当社の主要顧客はESGに積極的であり、サプライヤーに対しても、今後GHGの削減要請が高まることが想定される ● 自社やサプライヤーの省エネ活動の促進や、安価な再エネの導入によって、エネルギーコストの削減が実現できれば、生産や調達のコストの削減につながる可能性がある ● 自社の省エネ製品の普及が促進される可能性や、率先して自社が対策に取り組むことによる外部企業評価の向上が期待される
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> ● 自社の経営の中で気候変動のリスクと機会を位置づけるため、中長期CO2削減目標の策定を計画。この目標が2度目標の水準に整合すると表明できるように、SBTの認定を受けることを目指している。 ● SBT取得により、顧客や投資家からの削減要請に応えることを示し、ビジネスチャンスを拡大することを期待

株式会社フジクラ

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● 2030年削減目標について既に経営陣の承認を得ているが、SBT認定のためには更に高い削減目標の設定が必要である。● CSR及び設備部門でSBTに向けた目標案を設定し、実現のための方針・方策について議論を行った結果、事業の現状や今後の展開を勘案すると実現可能性の面で事業部門の理解が得られないと判断。● 今回、SBT認定の検討を行った結果、SBTは2℃目標達成のためのシステムとして社会的要請の高さを再認識した。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● CO2排出が、今後大きな事業リスクになって行くことを、グループ全体で強く認識していくことが必要。● Scope1&2削減のため、カーボンプライシングを導入。● グループ全体のScope3把握のため、排出量収集システムを展開。